

だんだん便り

第19号

2019年5月10日

一般社団法人だんだん会

408-0035 山梨県北杜市長坂町夏秋 918-5

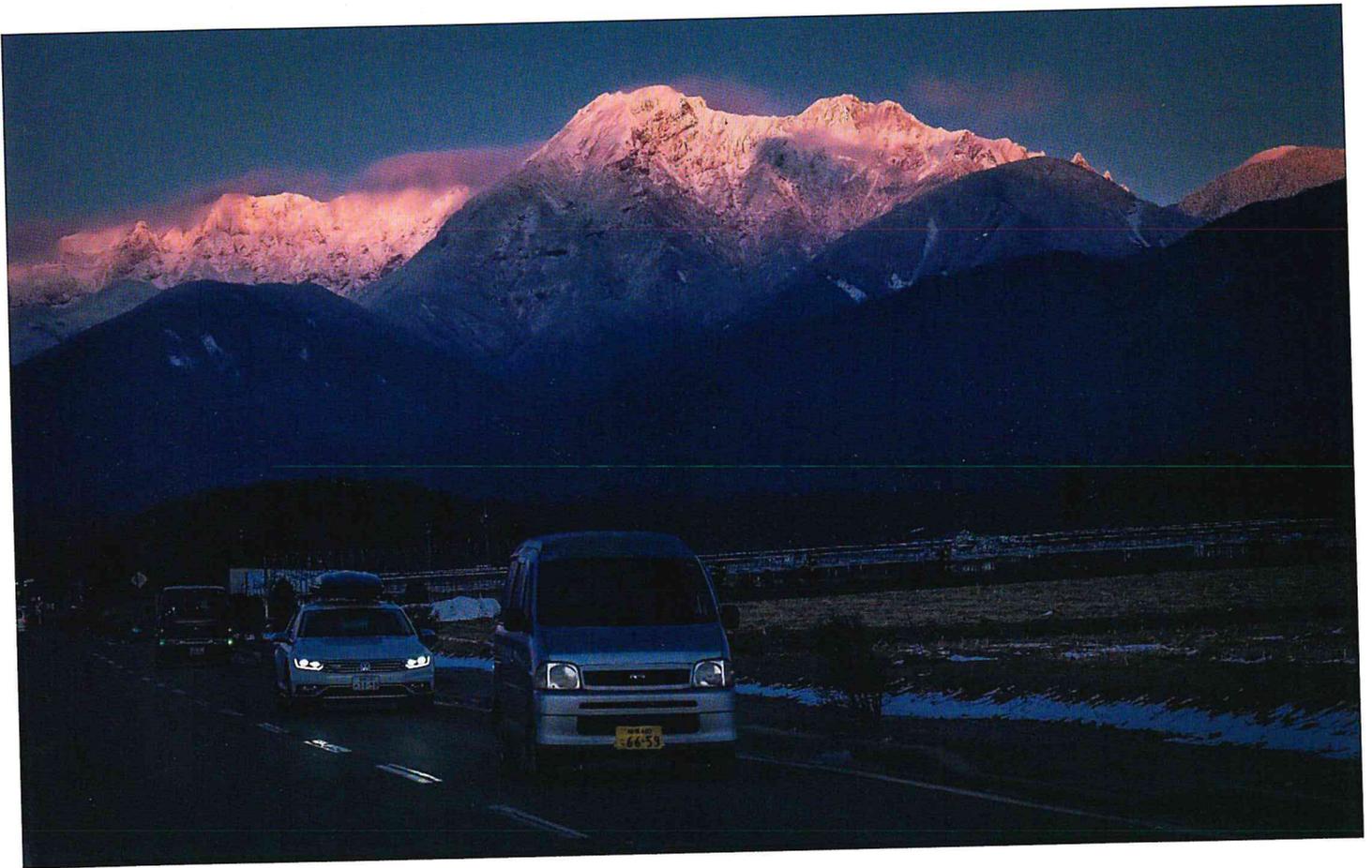
- ・法人本部 **0551-45-9566**
- ・地域看護センターあんあん **0551-30-7505**
- ・定期巡回てくてく24 **0551-30-7787**
- ・オレンジサロンわいわい白州・長坂 **0551-45-9566**

- ・グループホームわいわい白州 **0551-30-7566**

408-0315 山梨県北杜市白州町白須 1023

- ・わがままハウス山吹 **0551-45-6323**

408-0044 北杜市小淵沢町 10123-2



昼から夜へドラマチックに変化する時間帯。
(赤く染まる八ヶ岳にドライバーは気がついているかな)
空が濃紺から漆黒に変わるころは、星が主役に。
刻々と移り変わる姿を見せるこの街が私は好きだ。

写真・文 八ヶ岳山麓 富士見町 滝沢清次

グループホームわいわい白州（摩利支天）

摩利支天 山口 陽子

4月。待ちに待った4月になりました。



蕪崎駅前、ピンク色に染まった満開の桜が綺麗。
「おばあは綺麗な花を見ると若くなるよ」

武川町の神代桜満開の桜の下で、大勢の人目を避けてシャッターチャンス



武川町の神代桜、天候に恵まれ快晴で穏やかな日、ピンク色に染まった満開の桜最高でした。
(ボランティアの方たちといっしょに)

オレンジサロンわいわい白州・長坂・こぶち



オレンジサロンわいわい白州・長坂・こぶち

北杜の桜を満喫しました！！

南北にも長い地形と、広大な面積のここ北杜市。
桜の開花も例年になく遅く、また、場所によって開花時期に違いがあり、「花見」の企画をするボランティアも奮闘です。
今回は、花見の裏話をお伝えします。



まず花の見頃を推定します。地域の桜の木と今までの開花の様子を知っているから、また経験から見頃を予測することです。移動時間も含めて行程も検討します。
そして時間の合間に現地を下見、花の様子もですが、移動の距離・トイレの確認・休憩できる場所や食事のできる場所を決めるなどして備えます。
戸外でお茶ができるように早朝に準備をして、その結果、当日は参加者さんが「桜の花に浸り漬け」となりました。



オレンジサロンわいわい白州 桜の花見

北杜市の桜はまだ開花せず・・・



韮崎市穴山に行きました！

次の日・・・
思いもよらぬ大雪でした！



オレンジサロンわいわいこぶち やはり桜の花見

サロンこぶちは、今年度より会場を法人運営の「わがままハウス山吹」で月一回の開催となりました。4月は、同サロンでも「桜の花見」に出かけました。

小淵沢周辺の桜は固いつぼみです、予定変更で少し南へ出掛けました。
北杜の桜もなが〜く咲いていました、手で触れるほど間近に咲く桜の花に感激し「知らなかったなあ、北杜にこんなに桜の見事なところがあるなんて」
北杜で長く暮らしてきた参加者も感動していました。(写真がなくすみません；中嶋)

紡がれる命の物語

「命の本質は、ものがたりとかたち」
ものがたりは、その人が生きてきた道
かたちは身体のこと
身体は有限ですが、ものがたりは、大切な人の心の中
で生きています

合言葉は、「愛するよー」

田中一枝さん(本名)は、平成31年3月11日、大好きなご主人に見守られながら病院から旅立ちました。

すてきなご夫婦なんです。共にボランティア活動をライフワークとして一緒に歩いてこられました。

ご主人との合言葉は「愛するよー」(「愛してるよ」ではなく、「愛するよ」です)。どうしてかと聞いてみたら、「あるクリスマスの日に、主人が私にカードをプレゼントしてくれたの。ところが、そのメッセージには、『愛するよ』と書いてあって『て』が抜けていたのよ。二人で大笑いして、それ以来「愛しているよ」の代わりに「愛するよ」というようになったの。数えきれないくらい『愛するよ』と言い合ってきたのよ」と。

ALS(筋萎縮性側索硬化症)

田中一枝さんは80歳、筋萎縮性側索硬化症という難病でした。筋肉を動かし、かつ運動をつかさどる神経が障害をうけて全身の筋肉が痩せていき動けなくなっていく病気です。一枝さんは、延命になることはやらないとはっきり意思表示され、ご主人の介護を受けて在宅で療養されていました。

入浴の介助をしてほしいというケアマネージャーからの依頼で支援に入るようになりました。しかし症状の進行が早く2か月の間にほとんど口から食べることができなくなり、話すこともできなくなっていました。

衰弱していく一方で一枝さんは最後まで「できないと思わないでほしい。自分でできることは自分でやる。筆談ができるので自分で意思表示する」そう仰いました。

地域看護センターあんあん 浅見玲子

入院を勧めてしまいました・・・

入院はしないといつも仰ってましたがご主人の毎日の介護の疲労度は限界に達しており、見かねた私たち支援者は一枝さんに「ご主人に休んで頂くために短期間入院しましょう」と勧めました。一枝さんは思案なさったあと納得され入院しました。一枝さんの帰りを待っていましたが、一枝さんが家に帰る日はやってきませんでした。私は入院を勧めたことをとても後悔しました。

亡くなった一枝さんからの手紙

ところが一枝さんが亡くなって数日してから私は、一枝さんの自筆のお手紙をご主人から受け取りました。手紙を読みながら心が震えました。そして気がついたのです。「一枝さんは、勧められたから入院したんじゃない。ご主人のことや周りの人たちのことを考えて最良の選択をご自分でなさったのだと」

命ある限りひとのために動く

一枝さんは、「命ある限りひとのために動くこと」をモットーとなさり、60代のころに大病なされてからは、“人は自分以外の誰かを喜ばせるために生きている”ことに気づいたと仰っています。

一枝さんはお元気なころ10年にわたり病院の患者さんを元気にしようと病院ボランティアをなさっていました。その時に東日本大震災が起きました。そして東北の被災された方を励まそうと詩をお書きになり、その詩に曲がつけられ応援歌として東北に届けられました。どれだけ多くの方がその歌に勇気づけられ力づけられたことでしょうか。一枝さんの命の物語は脈々とこれからも紡がれていくのです。私は今でも一枝さんを心の中で感じ続けています。それは私たちの心のなかで一枝さんは生き続けているということでもあります。

地域看護物語

こんにちわ

私は三月十二日に死去いたしました。

この手紙の原稿は、生か中に書きました。

敬愛がなびて下さい

悲しまなびで下さい

私は、云に命に人生を楽しや、存分に

生きてたので、すから

私と出会い、今日まで、私と親しくして

いたった、全ての、おまに心から感謝

いたします

たくさん、ありがとう

そして、さようなら

皆様にとつこの、今日という日は、昨日、死んだ

人間が、あれほど、生きたいと願った

「明日」という日なのです

そのことを、せぬなりで、いって下さい

尚、故人への香典、献花、花巻寺は、固く

お断り致します

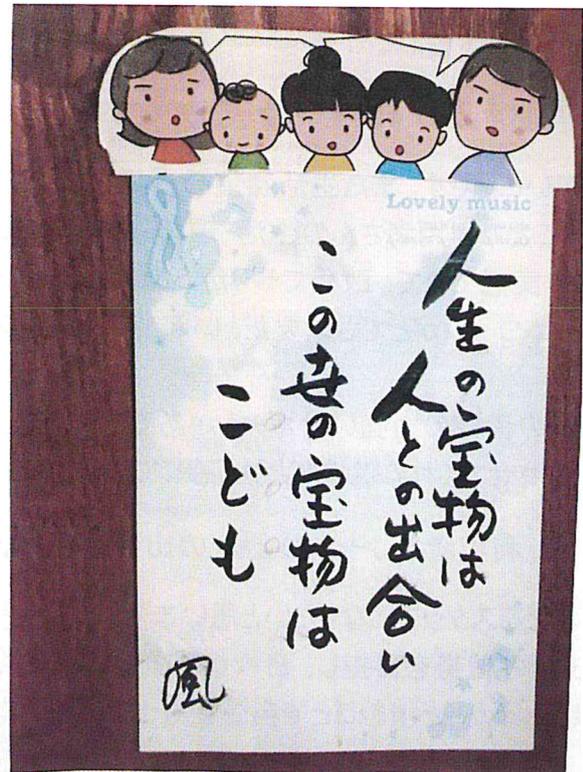
私の家族への、思い出の手紙など

尹君に、戴けたら、何より、うれしいです

愛をこぼるよ

合掌

一枝



東北に春よ来い
東北に春よ来い
早く来い
ひとりひとは
小さいけれど
思いやりが集まれば
大きな力になる

2011年 五月

風

一枝さんは、「風」という名前でボランティア活動をなさっていました。

てくてく物語 <その9>

『定期巡回てくてく24』(定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業)の活動内容の一端を連載でお伝えしています

てくてく担当職員、4月より2名常勤に

現在、てくてく24を担当している職員は、合計11名。4月より常勤2名が増え、常勤4名体制になりました。非常勤の方も、張り切って“てくてく”しています。



伊佐治江美さん

趣味

スキー

好きな花

カーネーション

感想 利用者さんの住居環境は各々違い、使用している物・ものの配置、調理用品一つとってもかなり違います。その方の生活習慣を覚えることから始まり、定期巡回サービスの難しさを実感しています。

大きな家の一室のみで、一人で生活されている方がほとんどです。その一部屋を快適に過ごしていただくことの難しさも感じています。

抱負 第一に利用者さんに笑顔になっていただけるように、私自身が笑顔で接すること。そのためには自分自身の身体も心も健康であることが大事だと思っています。

まだまだ介護職新人の私としては、迷ってしまうことばかりですが、一つの考えにとらわれず、諸先輩型や仲間に話を聞き、参考にさせていきながら、柔らかい頭でいられるよう努力します。

迷いながら、戸惑いながらですが、楽しく自分自身が働くことにより、利用者さんにも笑顔になっていただけるように頑張っていきたいと思います。



井出寿子さん

趣味

音楽鑑賞

好きな花

チューリップ

感想 私が定期巡回という仕事に携わって感じたことは、認知症がありながら一人暮らしをなさっている方が多いことです。また生活環境の多様性にも驚くことが多いです。訪問を重ねていくことで利用者さんの生活・環境・表情・気持ちが良い方向へと変化していく様を実感できて、改めてやりがいのある素敵な仕事だと思っています。連携・チームワークがとても重要だということもわかりました。

そして何より上司・先輩・看護師の皆様の力強いサポートがあることで安心して仕事できるし、自分自身を成長させてくれる職場だと強く感じています。

抱負 まだまだ未熟な私ですが、利用者さん一人ひとりとの出会いを大切にして、一日も早く皆様から信頼させるスタッフになりたいと思います。

また、介護にかかわる知識や技術の習得を目指し、日々の業務に取り組んでいくことはもちろんですが、経験をしっかりと積むことで自信をもって仕事と向き合えるよう頑張ります。

Information・報告

グループホームわいわい白州 運営推進会議

平成30年度の「運営推進会議」は計6回、隔月で開催いたしました。

入居者の方も都合のつく限り参加していただき、ご家族代表・地元の区長・民生児童委員と保険者・地域包括支援センターに参画していただき、運営の報告・情報交換と意見交換を行っています。

リスクマネジメント委員会を昨年に立ち上げ、ヒヤリハット・事故の対策への取り組み等の報告をしています。また入居者さんと家族とで小旅行ができたことは大きなステップになり、お出かけをさらに工夫してみるところを報告いたしました。

また、福祉避難所として機能できるよう防災備蓄品の準備と受け入れも検討しています。

課題となっているのは、地域との連携の強化です。

今年度は、連携方法を模索し、行事や交流を増やすなどしていきたいと思っております。

定期巡回・てくてく24 介護・医療連携推進会議

おおよそ6カ月に一度開催が義務付けられている「介護・医療連携推進会議」

平成30年10月10日と平成31年4月17日に開催いたしました。

10月までの半年間で22件の登録者、4月までの半年間で14件、事業開設以来延べ43名の方が「てくてく24」を利用されていることを報告。

現在14名の方にご支援をさせていただいています。

連携推進会議は、在宅看取りをされている訪問診療医・薬剤師・地域連携室担当看護職・地域の民生委員代表・介護支援専門員・そして保険者及び地域包括支援センターで構成されています。

職員体制の報告をしていますが、支援時間が重なっていることや移動時間にも時間を割いてしまうので「介護人材の不足」ぎりぎりまで運営されていることも報告いたしました。

事業を利用された方やケアプランを作成している介護支援専門員からは元気になれる・使い勝手がいい・生活を支えることを実感するサービスだと評価されています。市内外の主治医から、また多くの介護支援専門員に周知され浸透されてきていること確認しました。

そんな中で、同一時間に支援が集中し、ゆとりがない中で滞在時間が長くなってしまうことが課題となっています。

介護人材をどうしたら増やせるのかな…

呼びかけましょう！

「あなたも、わたしもヘルパーさん」

(文 中嶋)



わがままハウス山吹 (支援付き共生すまい)

4月の入居者は6名!! (長期入居3名、短期入居3名)

4月1日より、入居が始まりました。どんな方が入居するのか、わくわくドキドキしながら、でも楽しみにして受け入れさせていただきました。その結果、6名の方が入居なさいました。長期入居が3名で、短期入所が3名です。わがままハウス山吹でのみなさまの生活の一端をご紹介します。(写真・内容ともご本人の了解を得ています)

1回目の歓迎会『蕎麦パーティ』

(ボランティアによる『手打ちそば』とてんぷらの昼食会)



わがままハウス山吹のリビングで。法人理事も駆けつけ、にぎやかな集い。入居の経緯と感想をあいさつする場面も。



2回目の歓迎会『昼からワインパーティ』

(隣のレストラン『三郎屋』で。入居者5名と職員で)



「ワインをお飲みになる方は？」
「ええっ、4名!!」「白ですか、赤ですか？」「そうね、赤にしましょう」
全員、あっという間に飲み干しました!



お食事も全員完食 美味しかった!



カラオケも・・・

- ◆「レストランに来たの、30年ぶり・・・?!」
- ◆感激で涙・・・「どうして？」
「みなさんの心がうれしい・・・」
- ◆家族の介護疲れでご自分を癒すための2泊3日の短期入居利用の方あり。
- ◆みなさん開放感たっぷり、歌まで!

